

題材デザイン FIRST STEP —小学校図画工作科—

PDCA サイクルを意識した授業改善に向けて R7 版

1 PDCAサイクルを意識した題材デザインについて

- 題材デザインは、学習指導要領に示された資質・能力の育成を目指し、指導と評価の一体化を図るための重要なプロセスです。
- PDCAサイクルにおけるPlanの段階として、題材を通して育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の計画を作成することが重要です。
- さらに、PDCAサイクルを意識した授業改善において、CheckとActionの段階で得られた学習成果や課題の振り返りを次のPlanへ反映させることで、より質の高い題材デザインにつなげることができます。



2 題材デザインの手順

はじめに 図画工作科の内容の構成、授業時数、各学校で作成した年間指導計画を確認します。

Step1 題材を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、題材の目標を作成します。

Step2 題材の評価規準を作成します。

Step3 題材の「指導と評価の計画」を作成します。

3 題材デザインの具体 第5学年 題材名「のぞいてみると、〇〇な世界」

はじめに 図画工作科の内容の構成、授業時数、各学校で作成した年間指導計画を確認します。

Step1 題材を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、題材の目標を作成します。

- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編(以下、学習指導要領解説)で、題材で指導する事項を確認します。本題材では、「A表現」(1)イ、(2)イ 「B鑑賞」(1)ア [共通事項](1)ア、イを上げます。

[第5学年及び第6学年]

A表現

- (1)イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。
- (2)イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

B鑑賞

- (1)ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や考え方を深めること。

[共通事項]

- (1)ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

各学年の内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、相互の関連を図るようにしましょう。
[共通事項]の指導に当たっては、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて十分な指導を行うことができるように工夫しましょう。



- 児童の実態や既習事項等を想起し、児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にします。



題材を通して児童に身に付けさせたい資質・能力

光が差し込む箱の中をのぞく体験から生まれる思いや発想を基に、奥行き、光を中心に造形的な特徴を理解し、自分が感じた世界を立体的に表す。

- 題材の目標を設定します。

※下線部は題材に即した内容

- ・箱に穴を開けて、光が差し込む様子を見ながら思い付いたことを表すときの感覚や行為を通して、形や色、奥行き、光などの造形的な特徴を理解する。
・表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- ・光が差し込む箱の中をのぞいて感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の質感や特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。
・自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
・形や色、奥行き、光などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。
- ・主体的に光が差し込む箱の中をのぞいて思い付いたことを表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

Step2 題材の評価規準を作成します。

- 「参考資料」の巻末資料(p.87~)に示された「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を基に、学習指導要領解説に示されている「指導計画の作成と内容の取扱い(p.104~)」を参考にしながら、題材に即して作成します。

※下線部は題材に即した内容です。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・箱に穴を開けて、<u>光が差し込む様子を見ながら思い付いたことを表すときの感覚や行為を通して</u>、形や色、<u>奥行き、光</u>などの造形的な特徴を理解している。 ・表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、奥行き、光などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、<u>光が差し込む箱の中をのぞいて感じたこと、想像したこと</u>から、表したいことを見付け、形や色、材料の質感や特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 ・形や色、<u>奥行き、光</u>などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい<u>光が差し込む箱の中をのぞいて思い付いたことを表現したり鑑賞したりする学習活動</u>に主体的に取り組もうとしている。

※「内容のまとめりごとの評価規準」を踏まえ、題材の目標から作成する方法もあります。

Step3 題材の「指導と評価の計画」を作成します。

- 学習指導要領解説に示されている「指導計画の作成と内容の取扱い (p.104～)」を参考にしながら、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように指導と評価の計画を立てます。その際、1単位時間の授業や題材で得られた振り返りや課題を踏まえ、次時や次題材のPlanへ反映させるようにします。

事前に
材料や用具について、児童が自分らしく発想や構想をしたり、技能を働かせたりできるように、事前準備をしましょう。

導入では
児童が題材への関心・意欲や見通しをもつことができるように、場の設定や導入を工夫しましょう。

表現活動では
一人一人のよさや個性を認め、児童の思いを大切にす視点をもち、共感的な声掛けを行いましょう。

鑑賞活動では
児童が鑑賞の対象から感じ取ったり、考えたりすることを表現するために、書く活動を取り入れましょう。

振り返りでは
学習のねらいに沿って何について振り返ればよいかを明確に示し、振り返りを行いましょう。

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知	技	思	態	鑑賞	
1	・箱に穴を開けて、光が差し込む箱の中をのぞいて感じたこと、想像したこと、表現したいことを見付け、どのように主題を表すかについて考える。	○ 観察対話		○ 観察対話ワークシート			第1時は、記録に残す評価はしないが、「知識」と「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。
2	・光が差し込む箱の中をのぞいて感じたことや想像したこと、表現したいことを見付け、どのように主題を表すかについて考える。 ・形や色、奥行き、光などの造形的な特徴を基に、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりすることで、表現したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	○ 観察対話作品		○ 観察対話ワークシート			第2・3時を通して、「知識」、「技能」、「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。
3	・自分たちの作品を見合い、よさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を深める。	◎ 観察対話作品		◎ 観察対話作品カード			第4時は「思考・判断・表現(鑑賞)」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。

○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。
◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

- それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイントや「努力を要する」状況(C)と判断される児童への指導の手立てを想定します。

観点	題材の評価規準【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
知識	○箱に穴を開けて、光が差し込む様子を見ながら思い付いたことを表すときの感覚や行為を通して、形や色、奥行き、光などの造形的な特徴を理解している。 【観察、対話、作品】	・「おおむね満足できる」状況【B】 光が差し込む箱の中に表したい主題のイメージに合わせて、材料や用具を選んでいる。 ・「努力を要する」状況【C】と判断される児童への指導の手立て 光が差し込む箱の中の造形的な特徴を理解することができるように、穴を開ける場所や光を当てる角度や強さを変えたり、色セロハン紙を重ねたりすることを通して、光と形の実感できるようにする。また、材料に触れたり比べたりするよう促すなどの支援を行うことで、材料の質感や特徴に気付くことができるようにする。
技能	○表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表現したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 【観察、対話、作品】	・「おおむね満足できる」状況【B】 表したい主題に応じた材料や用具を選んで活用するとともに、前学年までに使用してきた材料や用具などについての経験や技能を生かしたり組み合わせたりして、表現したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 ・「努力を要する」状況【C】と判断される児童への指導の手立て 表したい主題のイメージを尋ね、材料の質感や特徴を確認しながら一緒につくったり、友人の作品を見に行くことを伝えたりすることで、表現したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができるようにする。
思・判・表(発想や構想)	○形や色、奥行き、光などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、光が差し込む箱の中をのぞいて感じたこと、想像したこと、表現したいことを見付け、形や色、材料の質感や特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 【観察、対話、作品、作品カード】	・「おおむね満足できる」状況【B】 光が差し込む箱をのぞいて想像したこと、表現したい主題を見付け、どのように表すかについて考え、形や色、奥行き、動き、光などの特徴を生かして主題を形にし、作品に表している。 ・「努力を要する」状況【C】と判断される児童への指導の手立て 主題について児童と対話し、一緒に試作したり、友人の表現を参考に促したりすることで、主題をどのように表すかについて考えることができるようにする。
思・判・表(鑑賞)	○形や色、奥行き、光などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 【観察、対話、ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【B】 友人の作品の紹介をしたり、作品を鑑賞したりすることで、表したい主題に適した表現方法の工夫を見付けたり、造形的なよさや美しさを伝えたりして、見方や感じ方を深めている。 ・「努力を要する」状況【C】と判断される児童への指導の手立て 友人の作品の作品カードを確認するよう伝えることで、造形的な特徴を基にした作品のよさや美しさについて感じ取ることができるようにする。 造形的な特徴については形や色、奥行き、光など、表現方法については表現の意図や特徴、表し方の変化といった、鑑賞する際の具体的な視点を提示する。
主体的に取り組む態度	○つくりだす喜びを味わい光が差し込む箱の中をのぞいて思い付いたことを表現したり鑑賞したりする学習活動に主体的に取り組もうとしている。 【観察、対話、作品、ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【B】 箱に穴を開け、光が差し込む箱の中をのぞいて思い付いたことを表現したり鑑賞したりする学習活動に主体的に取り組もうとしている。 ・「努力を要する」状況【C】と判断される児童への指導の手立て 試作品や提示した箱を見ることを促したり、対話を通してイメージを引き出したりすることで、少しずつ学習活動に取り組むことができるようにする(第1～3時)。 友人の作品と一緒に見ながら「どこに注目したか」「どのような工夫を見付けたか」と問い掛けることで、感じたことを言葉にするための支援を行い、鑑賞の楽しさや見方や感じ方の深まりに気付くことができるようにする(第4時)。

評価資料の収集や評価方法の工夫として、次のようなものがあります。

- ・観察(児童の動き、視線、発話) ・対話 ・フィールドマップ ・座席表 ・ワークシート ・ポートフォリオ
- ・作品カード ・作品(途中経過も含む) ・デジタルカメラ ・タブレット 等

形として残る作品だけで評価せず、つくる過程における児童の活動の様子を観察し、声掛けをしたり問い掛けたりしながら児童の思考や行為を見取ります。多様な方法を用いて、適切な場面を捉えて評価していきます。題材のまとまりの中で適切に評価を実施できるように、指導と評価の計画を立てる段階から、計画的に評価の時期や評価方法を考える必要があります。



学習評価において、妥当性や信頼性を高めるためには、「おおむね満足できる」状況(B)としてどのような姿が考えられるのかを具体的に予測しておく必要があります。ただし、実際には児童一人一人が自分の思いを実現するので、表現する姿は多様であることを理解し、教師が予測した姿だけで評価をしてしまわないように留意することが大切です。

